

現地説明会・発掘体験を行いました。

地域の方々に発掘調査や地域の歴史を知ってもらう機会として、調査担当者が、現地で発掘調査の結果から考えられる当時の生活について説明したり、発掘体験を行いました。

平底第2遺跡現地説明会
(日之影町) 参加者数50名
平成28年9月25日(日)



平田遺跡現地説明会
(都城市) 参加者数80名
平成28年11月12日(土)



嫁坂遺跡現地説明会
(都城市) 参加者数30名
平成28年12月17日(土)



百塚原遺跡現地説明会
(西都市) 参加者数15名
平成28年12月17日(土)



出前講座・出前展示に申し込みませんか？

宮崎県埋蔵文化財センターでは、職員が土器や石器などの遺物を持参し、学校や団体の皆様に、地域・周辺の歴史についてお話しする「**出前講座**」を行っています。また、本物の土器や石器、解説・写真パネルなどの「**出前展示**」のご希望にもお応えします。いずれも費用はかかりません。日程調整や準備に時間が必要なため、普及資料課までご相談ください。

本物の土器や石器を学校向けに貸し出す「**学習キット**」もご利用ください。

連絡先：宮崎県埋蔵文化財センター分館 普及資料課 Tel. 0985-21-1600



都城史談会での出前講座



KIRISHIMAツツブキ武道館での出前展示

平成29年度普及事業のお知らせ

※事業の日程、内容についてはやむを得ず変更することがあります。ホームページ等で事前にご確認ください。

埋蔵文化財講座 第3日曜日13:30より 参加無料・申込不要
「ここまでわかったひむかの歴史」

宮崎県埋蔵文化財センター設立35周年記念の講演をします。
場所：分館(宮崎市神宮)

5月21日(日) 縄文時代の食 -集石遺構と炉穴- 別府原遺跡(西都市)

6月18日(日) 弥生時代の大きなムラが残したもの

7月16日(日) 本庄古墳群を造った人々の集落

12月17日(日) 中世石塔の考古学

1月21日(日) 古代日向の国府に迫る

2月18日(日) 住環境良好？ 縄文時代後期の集落跡

下那珂遺跡(宮崎市) 西下本庄遺跡(国富町) 山内石塔群(宮崎市) 寺崎遺跡(西都市) 竹ノ内遺跡(宮崎市)

遺跡発掘速報展2017 観覧無料

近年、発掘調査を行った都城-志布志道路関連の遺跡の資料を中心に展示します。

場所：県立図書館特別展示室

期間：8月26日(土)～9月18日(月)



遺跡発掘速報会 参加無料・申込不要

昨年度までに発掘調査を実施した遺跡の速報講演会です。

場所：県立図書館視聴覚室

日時：9月3日(日) 13:30～16:30

報告遺跡：平田遺跡、嫁坂遺跡、橘通東1丁目遺跡、(予定) 塚原遺跡、山之後遺跡、平底第2遺跡など

施設公開「埋文センターで考古学体験」

参加無料・申込不要
埋文センターを知っていただくイベントです。さまざまな体験やプレゼントを準備しています。
場所：分館 日時：11月3日(金・祝) 10:00～16:00

移動展示会「ふるさと発掘!埋文キャラバン」

埋文センター所蔵の遺物から逸品を選んで各地で公開する企画です。講座や解説もあわせて実施します。

三股会場 観覧無料
場所：三股町立文化会館
期間：9月30日(土)～10月29日(日)
関連講座：10月21日(土)

椎葉会場 観覧無料
場所：椎葉村役場
期間：11月6日(月)～11月24日(金)
関連講座：11月19日(日)

分館テーマ展示 観覧無料

分館では常設展示の一部を季節ごとに入れ替え、平成29年度は3回のテーマ展示をおこないます。

春の展示「埋文講座関連展示①」
秋の展示「都城志布志道路関連の遺跡」
冬の展示「埋文講座関連展示②」



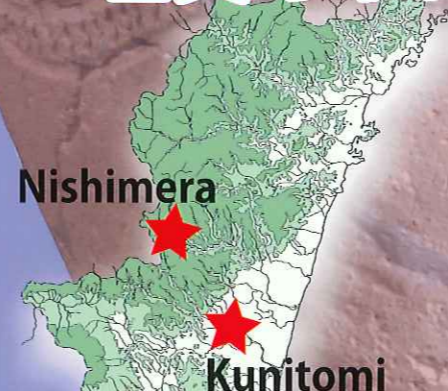
宮崎県埋蔵文化財センター

MIYAZAKI PREFECTURE ARCHAEOLOGICAL CENTER

宮崎県埋蔵文化財センター通信

19号

移動展示会
ふるさと発掘!
埋文キャラバン



県内2会場で開催しました。

- ① **国富会場** 国富町立図書館
平成28年9月17日(土)～10月23日(日)
キャラバン講座 10月15・16・20日
- ② **西米良会場** 西米良村保健センター
平成28年11月5日(土)～11月20日(日)
キャラバン講座 11月5・6・12・13・19・20日



国富会場

キャラバン講座のようす
左：西米良会場・体験講座
下右：国富会場・体験講座
下左：国富会場・展示解説



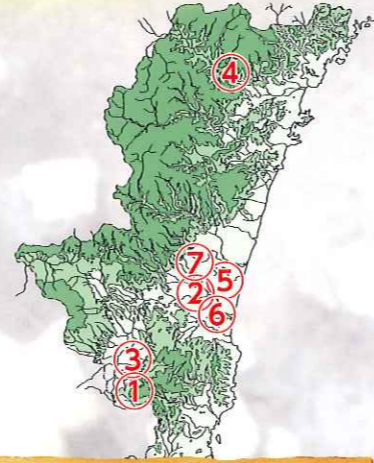
西米良会場

宮崎県埋蔵文化財センターは、宮崎県教育委員会に所属し、県内各地における発掘調査や文化財の保護、教育普及活動に取り組む機関です。1982年の設立以来、約35年間にわたって県内各地で発掘調査を行い、出土した膨大な考古資料の収蔵管理を行っています。今回の移動展示会は、埋蔵文化財センター所蔵資料の中から選りすぐりの逸品や、地域に関連する資料で構成し、広く県民の皆さんに郷土の歴史に触れていただくことを目的に県内2か所で開催しました。平成29年度は三股町と椎葉村にキャラバンします。ご期待ください。



平成28年度の発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センターでは、平成28年度に県内7か所で発掘調査を実施しました。今年も、いにしえの人々が使った道具(遺物)や生活の跡(遺構)など、郷土宮崎の歴史を語る貴重な資料がたくさん見つかりました。これら7遺跡での調査結果を速報でご紹介します。出土遺物や記録した遺構は、今後埋文センターで土器の接合や製図などの整理作業をすすめ、報告書にまとめていきます。



① 嫁坂遺跡 都城市梅北町

調査期間：2016年5月11日～2017年2月17日

嫁坂遺跡は、都城市の南西部に位置し、鱈塚山系から派生する丘陵上に立地します。調査の結果、主に縄文時代後期から晩期にかけての遺構や遺物が見つかりました。調査区はA～D区に分かれ、A区では縄文時代後期後半の中岳Ⅱ式土器が、B・C区では縄文時代晩期の黒川式土器が出土する。また、C区では縄文時代早期の散礫(焼けた礫の広がり)が見つかり、塞ノ神式土器や石坂式土器なども出土しています。



8号住居跡遺物出土状況

② 塚原遺跡 東諸県郡国富町大字若知野

調査期間：2016年5月30日～2017年3月31日

塚原遺跡は、国富町東部、東九州自動車道と県道が交差する平野部に広がる低湿地とその南西の丘陵上に立地しています。調査の結果、旧石器時代から近世にかけての土器や石器などの遺物が出土しています。調査区の低湿地側(H区)で古代～中世の溝状遺構や中世の水田が確認され、丘陵側(J区)では旧石器時代の礫群や縄文時代の集石遺構、古墳時代の墳丘などの遺構が見つかりました。



縄文時代早期の集石遺構

③ 平田遺跡 都城市南横市町

調査期間：2016年6月6日～2017年2月21日

平田遺跡は横市川右岸の標高約141m～148mの横市段丘上に位置しています。本年度の調査では、弥生時代の花弁状住居跡1軒と周溝状遺構1基、土坑1基と近世以降の溝状遺構3条、井戸跡4基が見つかりました。また、遺物としては弥生土器や陶磁器が出土しています。昨年度に一部調査された周溝状遺構の続きも確認され、平成15・16年度および27年度の調査の成果とあわせて、当時の状況を知る貴重な資料となっています。



周溝状遺構

④ 平底第2遺跡(二次) 西臼杵郡日之影町七折

調査期間：2016年6月29日～2016年10月13日

平底第2遺跡は、日之影町平底トンネル東口近くに位置し、丘陵の斜面から谷部にかけてゆるやかな傾斜地に立地しています。本年度の調査は昨年度2～3月に行われた一次調査に続いて行いました。一次調査も含め縄文・弥生時代の5軒の円形の竪穴住居跡が見つかりました。発掘調査では、多数の土器や石器が出土しており、今後の整理作業によって、竪穴住居跡の細かな時期が明らかになるでしょう。

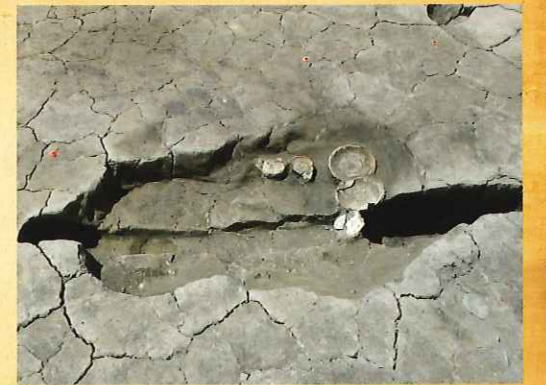


竪穴住居跡

⑤ 山之後遺跡 西都市大字鹿野田

調査期間：2016年7月4日～2016年9月8日

山之後遺跡は、西都市南東部に位置しており、丘陵南裾の低地に立地した遺跡です。今回の調査では、中世を中心として多くの遺物が出土しており、この頃から付近に人々が住んで活動していたことが明らかとなりました。一方、低地で遺構は少ないですが、その中の土坑1基から、土師器の皿が5点、埋められた状態で出土しています。この他にも1点のみですが、古代の瓦と考えられる遺物が出土しており、周辺に古代の瓦葺きの施設があったことが想定できます。



土坑内の出土状況

⑥ 橋通東1丁目遺跡 宮崎市橋通東1丁目

調査期間：2016年9月6日～2017年3月10日

橋通東1丁目遺跡は、宮崎県庁の外來者駐車場南側の標高約5mに立地しています。中世を中心とした土師器や弥生時代から古墳時代にかけてのものと考えられる土器が出土しました。地表から約1.2mの深さに畦畔(田の畦)が見つかり、粘性の強い土層からは、イネのプラントオパール(植物細胞にふくまれるガラス質の物質)が検出されました。中世以前の水田が複数の面で見つかったことから、古くから水田耕作が繰り返されていたことがわかりました。このほか、ウシのものと考えられるたくさんの足跡もみつかりました。



コンクリート基礎の下部に残存した畦畔

⑦ 百塚原古墳群 西都市大字三宅

調査期間：2016年10月17日～2017年1月13日

百塚原古墳群は、西都原古墳群の西側に位置する、西原・永野地区の丘陵上にある古墳群です。本年度の調査では、地中レーダー探査の結果に基づいて、8号墳を含む古墳4基と墳丘を失った古墳2基の周溝(古墳の周囲をめぐり巡る溝)調査を行い、地下式横穴墓(古墳時代の南九州特有の墓)5基を確認しました。このことから、現在の古墳は耕作などにより削られ、小さくなったり、無くなったりしていますが、古墳時代の終わり頃(今から約1400～1500年前)には、直径約12～16mの多くの小円墳が密集して造られていた様子がうかがえます。



百塚原古墳群遠景(西より)